

**「いじめ」アンケート**

「安心して過ごせる学校を目指して」と題した、いじめに関するアンケート。市教育委員会が昨年に続き5月に実施(昨年は6月と11月)。対象は市内の全小中学校(小学校22校・中学校10校)。対象者は6,439人(小学生4,167人・中学生2,272人)。設問は昨年と同じで2問。

学校側も「学校いじめ防止基本方針」をもとに、いじめの未然防止や早期の対応に努めている結果だと言えます。ただし、いじめを「した」「された」という回答が減少しているからといって安心はできません。各項目の件数を見ても、小さなトラブルは日常的に発生しています。

こうした日常の小さなトラブルを大人が見逃すことなく、しっかりと対応していくことが今後大切です。小さな事案が、重大な事態に発展する可能性もあるということを認識していかなければなりません。

また、アンケート項目の中で一つだけ増加したのがあります。それは、小学生の「ネット・メールで中傷をされた」と回答する児童の数です。

小・中学校では、インターネットを通じた「いじめ」やトラブルが見られるようになり、今後も増加していくことが心配されます。パソコンやスマートフォンなどを介したトラブルは、学校だけでは早期発見・早期対応が困難

**問1**

「次のようなことを『した』『された』ことはありますか」

多くの項目でいじめ行為は減少 ネットを介したトラブルが増加

アンケートの結果を昨年の同じ時期と比較すると、ほとんどの項目で「した」「された」と回答する児童生徒が減少しました。これは、子どもたちが

# 子どもたちが感じていること

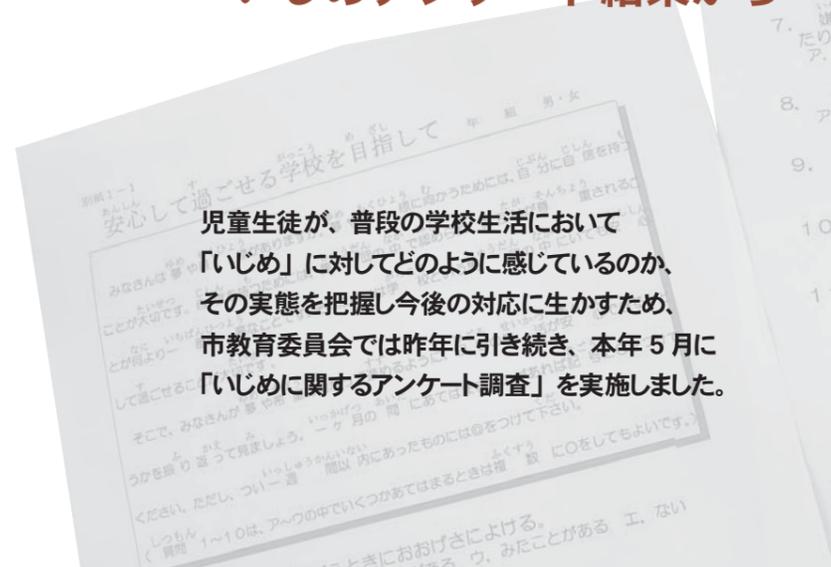
## いじめアンケート結果から

**問2**

「安心」との回答が昨年より増加 いじめ以外の不安にも対応必要

小・中学校ともに「安心」「ほぼ安心」と回答する児童生徒が昨年よりも増加しました。これは、「問1」の「いじめ」に関する項目が減少したことと関連しているものと考えます。

また、「不安」と回答する児童生徒の中には、学習に対する不安も多くありました。学校や家庭では「いじめ」に限らず、学習や部活動など不安要素をしっかりと把握し適切に対応していくことが大切だと言えます。



**いじめ 根絶 特集**